

平成28年度 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成28年5月23日(月)

会場 大山町立大山中学校

◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

◎ 指導助言者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー 馬場宏明 先生

1. 授業参観および指導助言(9:55~12:15)

2. 授業参観後の指導助言(13:30~14:10)

3. 研究授業(13:30~14:20)

3年国語科 学びて時にこれを習ふー「論語から」(学習指導案は別紙)

◎ 授業参観の視点(参観者は生徒に話しかけない、机間を歩き回らないで参観する。)

4. 研究協議および指導助言(14:55~15:35)

(1) 授業者の自評

(2) 参観者より授業の感想

(3) 指導助言

授業が始まってから、グループの形をつくるまでの時間が適切であった。生徒に配布したプリントも、課題ごとに分けて配布されており効果的であった。またプリントに取り組んでいる生徒の姿も良かった。ノートに書いている字をもっと丁寧に書くように指導していくとよい。

課題を確認する場面では、挙手した生徒に発言させるのではなく、教員がグループでの取り組みの様子を見て、指名して発言させた方がよい。挙手した生徒に発言させるのは、発言できる生徒だけで授業を進めるシステムになってしまう。指名して発言させることで、一人一人を授業に参加させるようにしていくことが大切。また、指名する際には、今日の課題ができているぎりぎりのラインの生徒を指名するようにしたい。

教師が説明したいことやまとめとしたいことも、生徒の説明に質問をしたり、生徒同士の考えをつなげていくことを通して、学びを深めていくことができるようにする。教師がだらだらと説明することはしないようにする。

今日の授業は、全体を通してテンポ良く授業が流されており、授業者が生徒の実態をよく把握していることも感じられ、とてもよい授業であったと思う。

5. 講義(理論およびシステム)・模擬授業体験(15:35~16:45)

講義では、「協同的な学び」の授業づくりについて、プレゼンテーションソフトを利用しながら、説明をしていただいた。

協同的な学びの哲学として、

- ・ すべての子どもの学ぶ権利を保障する
- ・ すべての子ども一人残らず学びに参加させる

- ・ 教師全員が互いに学び合い教育の専門家として成長する
- ・ どの生徒も一人にしない・・・子ども同士がつながる
- ・ どの教師も一人にしない・・・先生同士がつながる（同僚性）

の5点を挙げておられた。大切にしなければいけない点だということを強く感じた。

模擬体験授業では、数学の課題を通して教員がグループ学習での学び合いを体験することができた。課題を説明する場面でも、数学の教員ではなく他の教科を専門としている教員が説明していたが、説明ができたことよさや、説明を聞いて課題が理解できることよさを体験できたように思う。

また、グループ学習の約束として、

- ・ まず独りで考えよう
- ・ わからなかったら訊こう
- ・ 訊かれたら応えよう
- ・ 訊かれるまでは、独りで考える時間を大切にしよう

の4点を挙げておられ、毎時間の授業でこの約束を確認していくことの大切さを説明されていた。

この約束のもとに、継続してグループ学習を積み上げていくことで、1年生より2年生、2年生より3年生と学習集団として成長させていかなければならないとも感じた。

6. 授業研究会を終えて

人事異動が毎年行われる学校事情では、研究の継続が難しくなることがある。その点を踏まえ、今回の授業研究会は新年度の最初の第一歩としてとらえ、継続のスタートと位置づけ、研究の継続のために教職員の意識のスタートラインをそろえる研修になるように心がけた。

公開授業では、授業者が研修のテーマに沿った授業実践をし、本年度転入した教職員も研修の方向性の具体的イメージを持つことができたと感じる。

さらに、アドバイザーによる公開授業の指導助言、本研究の理論とシステムの講義により、日々の授業で大切にすべき点について、改めて共通理解を図ることができたと感じる。また、アドバイザーによる模擬授業体験では、教職員自身が授業での生徒の気持ちを感じ取るとともに、課題設定のあり方や、生徒の学び合いを創り出すことの重要性を肌で感じる事ができたように思う。今回の授業研究会を活かし、今年度の研究を充実したものとしていきたい。